

# 平和記念だより

◆編集・発行：高松市 人権啓発課 高松市平和記念館  
◆連絡先：高松市松島町一丁目15番1号  
たかまつミライエ5階  
TEL:087-833-2211 FAX:087-833-2244



## 戦争の悲惨さと平和の尊さについての講演会

平和記念館では、将来を担う若い世代に高松空襲の実相などを伝え、平和の尊さを理解していただくため、今年度から新たに小・中学校で「戦争の悲惨さと平和の尊さについての講演会」を開催しています。

第1回目は、6月21日（金）に多肥小学校で開催し、同校の6年生、約200人に参加いただきました。講師は、「高松空襲を伝える語り部の会」の浄土卓也さんをお願いしました。

浄土さんは、高松空襲で多くの市民が命を奪われたことを説明し、「空襲で命を失った人の多くは、子どもたちや女性を中心とした民間人。戦争は絶対にいけない。生きるということは素晴らしい。人を殺してはいけない。

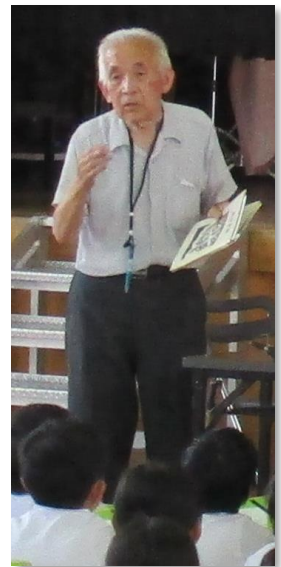


多肥小学校での講演の様子

命を大切にしてほしい。」と訴えておられました。講演を聞いた児童は「多くの人の命を奪う戦争の怖さを実感した。命の尊さ、平和の尊さを伝えていきたい。」と話していました。

第2回目は、12月4日（水）に下笠居中学校で開催し、同校の生徒及び下笠居小学校の6年生、保護者、約180人に参加いただきました。講師は、「高松空襲を伝える語り部の会」の戸祭恭子さんとまつりにお越し、「戦争と生命いのち—高松空襲を生きのびて—」と題して、高松空襲の体験を語っていただきました。

戸祭さんは、高松空襲を中新町で体験され、当時14歳の女学生でした。



浄土 卓也さん

昭和20年7月4日未明、ドドドドッバリバリッという音に目をさまし、焼夷弾が落ちてくる様を目にされました。死と隣り合わせの緊張の中、火の海の中を家族で逃げながら、おびただしい数の死体と直面されるなどの辛い経験をされました。そして、戦争が終わっても、食料難の中、生き延びるために大変な思いをされました。



戸祭 恭子さん

戸祭さんは、「平和な世の中では人を一人でも殺したら殺人と言うのに、国と国との争いでは多くの人を殺しても殺人とは言わない。戦争は殺人であり、どんな場合でも人命の尊さ・重さに差はない。皆さんは、他人の命も自分の命もどうか大切にしてほしい。」と訴えておられました。

どの生徒さんも真剣な眼差しで戸祭さんのお話に耳を傾け、一生懸命聞いていました。



下笠居中学校での講演の様子

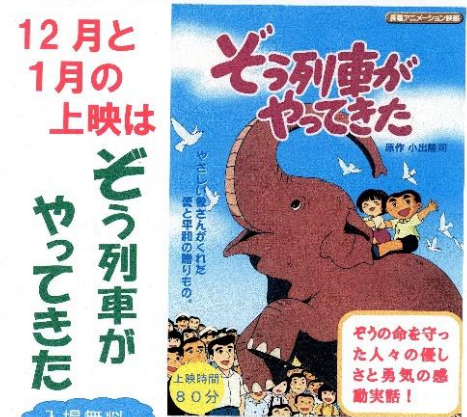
## 平和映画上映会の開催

平和記念館では、次のとおり平和映画上映会を行っています。上映する作品は、当館のホームページや館内のポスターでお知らせしています。

お子様が親しみやすいアニメ作品や記録映画を上映する場合もございます。ぜひ、この機会に御来館され、映像学習室の大画面で、迫力のある映像をご覧ください。

**とき** 開館日の土・日・祝日  
1回目：午前11時～  
2回目：午後2時～

**ところ** 高松市平和記念館 映像学習室  
※ 上映作品や上映時間などは変更になる場合がありますので、ご了承ください。



## 平和映画上映会

**とき** 開館日の土・日・祝日  
1回目：午前11時～、2回目：午後2時～  
**ところ** 5F 高松市平和記念館 映像学習室  
ぜひ、平和記念館の大画面をご覧ください。



## ★今後の行事予定★



### 高松市戦争遺品等収蔵品巡回展

2月

と き 令和2年2月20日（木）～3月3日（火）  
午前9時～午後5時

ところ 高松国分寺ホール  
（休館日：毎週月曜日、月曜日が祝日の場合は翌日）

内 容 高松空襲の写真パネル、国分寺町近辺の皆様から寄贈された戦争遺品等を展示

## 収蔵資料の貸出しについて

平和記念館では、平和意識の啓発に役立てていただくため、高松空襲の被災後の写真パネルや寄贈いただいた資料、DVDなどの貸出しを行っています。昨年度は、33の個人、団体、学校などにお貸ししました。

また、平成25年度から、高松空襲と戦時中の生活について学ぶことのできるパワーポイントデータの貸し出しも行っております。

地域や学校での平和学習に、平和記念館の収蔵資料をぜひご利用ください。



### パワーポイント資料



### 実物資料貸出セット内容



焼夷弾  
防空頭巾  
ゲートル（布製）  
水筒

モンペ

\* 衣料切符  
\* 家庭用菓子購入通帳  
\* 招集令状  
\* 罹災証明書  
\* 防空必勝の誓

\* は、レプリカ



## 収蔵品紹介 64 《最近の収蔵品より》

### 写真週報（しゃしんしゅうほう）

提供者 万野 年紀 様

内閣情報部（1937（昭和12）年9月に発足、1940（昭和15）年12月内閣情報局に昇格改組）が編集した国策グラフ誌『写真週報』。日中戦争勃発から半年後の1938（昭和13）年2月16日、第1号（A4版、24ページ）が創刊され、一部10銭（366号からは一部20銭）で発売されました。



1943（昭和18）年2月3日  
第257号

当時「アサヒグラフ」が80銭、新聞朝刊が75銭で販売されていたことから、10銭という価格がいかに破格であったかが分かります。

最終号は、終戦の年である、1945（昭和20）年7月11日・第375号です。『写真週報』は、写真を通じて国策を分かりやすく国民に伝えることを目的に、国民への啓発宣伝と戦意高揚を目的としていました。

表紙に「米英色を一掃しよう」の文字が躍るこの第257号の特集は、国民の生活の身の回りに未だ残存する「米英的なるもの」に言及して、「耳を洗い、目を洗い、心を洗い」と、その一掃を唱え、国民に「米英にこびる生活」からの脱却を迫っています。具体的に写真やリストで、化粧品、看板、音楽（ジャズ）、レコード、ジュース、香辛料、お茶、鉛筆、バッジ、帽子等の多種多様な国民生活から排除されるべき「米英的なるもの」を詳細に紹介しています。

国立公文書館の「アジア歴史資料センター」の検索サイトで、『写真週報』の創刊号からのすべての号を、デジタル画像として参照することができます。

※ 参考文献 「『写真週報』とその時代」 玉井 清 編著

### 編集メモ

昨年11月、フランシスコ教皇が、ローマ・カトリック教会の教皇として38年ぶりに日本を訪れました。長崎 爆心地から核兵器禁止条約に言及し、核兵器廃絶のメッセージを発信され、核兵器の非人道性を強く非難するとともに、広島市の平和公園でスピーチを行い、核兵器の使用は倫理に反すると強調されました。

高松市では、平和首長会議などに加入し、世界各国の都市と連携して、一日も早い核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を目指しています。現在、平和首長会議では、核兵器禁止条約の早期締結を目指す署名活動に取り組んでおり、高松市も同会議の一員として、核兵器禁止条約の早期締結を目指す署名活動を実施しています。

平和記念館のホームページでウェブサイトから電子署名ができるようにしているほか、館内に署名用紙を設置していますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

### 高松市平和記念館

開館時間：9時～17時 休館日：毎週火曜日（火曜日が祝日の場合は翌日） 入館料：無料

▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html>